

# からきた 菖蒲館

しょうぶかん

ハロー  
From Shobukan  
第19号

新春号



発行：2013年12月22日（隔月発行） No.019  
唐木田コミュニティセンター運営協議会 編集：広報部会  
公式ホームページ：http://karakida.org/  
メールアドレス：karakidashobukan@ttv.ne.jp

## 謹賀新年

唐木田コミュニティセンター運営協議会

### 自宅で最期まで過ごすために

地域医療講座シリーズ（第3回）

浜 佳恵

高齢者の健康に関する意識調査（平成19年度・内閣府）によると、“治る見込みがない病気になった場合、どこで最期を迎えたいか”の回答結果では「54.6%」の方が自宅を選んでいきます。現実の看取りの場所は81%が病院、在宅は13.9%の結果となっています。スウェーデンでは病院42%、在宅20%。

他の国と比べてみても、日本の看取りの場所は圧倒的に病院となっています。1950年代の日本の看取りの場所は自宅での看取りが当たり前の時代でした。今後は、日本でも在宅での看取り数を増やしていく方針となっています。

最後まで自宅で過ごす・過ごさせるコツにはいくつかのポイントがあるのでご紹介させていただきます。

#### 1. 相談窓口を探す

それぞれの地域に包括支援センターがあります。介護保険の申請や介護相談にのってくれ、アドバイスをしてくれる場所です。

#### 2. 訪問診療・看護など医療サービスを探す

急変時の対応が一番心配ではないかと思えます。24時間対応している在宅医・訪問看護師を探し、医療の相談ができるようにしておきましょう。

#### 3. 自分の意思を家族・医療者に伝えること

延命装置の事や、最後は自宅で過ごしたいのかなど、話すことで統一した方向性が図れるからです。

訪問看護を利用している多摩市在住の85歳の女性がこんな話をしてくれました。

「こうやって1人暮らしが出来るのは、地域の皆さんのおかげです。近所のスーパーでも皆さん声をかけてくれるし、マンションの方も荷物を玄関まで運んでくれるのよ。本当にありがたい。そして自分に何かあった時のために、元気なうちに身の回りの整理もしているの」と。元気な時に、いろいろ調べ、考えていく事、地域の力を借りて生活して行く事も大切だと教えてくれました。

1950年代では、自宅がもっともありふれた死を迎える場所で、“看取りの場所”。家族の絆を再確認出来る大切な儀式。地域社会にとっても“看取り”は生の実感といのちの大切さを知る非常に大事な儀式でした。

在宅で看取りをされたご家族から聞く言葉の中で、「自宅で最期まで過ごさせてあげる事が出来たのは、ご近所の方の支えもあったから」だったと聞くことがあります。

自宅で看取ることは、大変ではありますがいろいろなサービスを受け、相談し、介護問題を抱かえない事で“最後まで自宅で過ごす”ことが可能になるのではと思っています。

まだまだ皆様には健康で元気に第3、第4の人生を楽しんで頂きたいと心から願っております。

筆者紹介：浜 佳恵（はま よしえ）  
からきた駅前クリニック 訪問介護師

### まだまだこれから

噺家という生き方（第3回）

三笑亭可龍

入門して約四年間は「前座」という修行期間があり、落語の稽古よりも雑用が主なので、本当に落語が好きでないと途中で辞めてしまう人も少なくありません。私は入門前から師匠に「修行はこういうものだ」ということをある程度聞いていたので、同級生が皆進学し、学生生活を楽しんでいたので横目に見るとやはり羨ましく思えます。しかし、入門前に師匠が「まず三日我慢しなさい。その後は三週間、三ヶ月…半年我慢できれば後はずっと続く。」と教えてくれた言葉を支えに辛抱しました。

前座の四年間が明けると「二ツ目」に昇進し、落語の修行に専念することが出来ます。着物も、紋付き、羽織、袴の着用が許され見た目もより噺家らしくなるので、昇進が決まった時は本当に嬉しかったものです。昇進に合わせて、師匠がお祝いに黒紋付きを誂えてくれました。師匠の師匠もそうしてくれたそうで「だから俺もお前に誂えてやるんだ」と、そういう粋な風習のようなものも含めてこの世界に憧れていたもので、とても感激しましたし、今でも大切な宝物です。

二ツ目は十年間あり、入門から「真打」になるまでには約十四年かかります。真打昇進が決まった時は、喜びよりも重圧の方が大きかったです。「真打」という言葉は、落語の世界から出たものですが、一般的にも存在の大きさというような意味で使われます。もちろん自分が真打にふさわしいなどと思ったことはありませんから、その肩書きを背負うということは、これは責任重大だと思いました。

昇進のお披露目の高座では寄席でトリを勤めることができます。私の「ひざがわり

（トリの前の色物演者）」は北見マキ先生にお願いしました。子供の頃の寄席通いで憧れた奇術の先生に自分の「ひざがわり」を勤めて頂く、これほど幸せなことはなく、一つ夢が叶った瞬間でした。

真打になってから三年が経ちましたが、変わった点は高座に対する意識でしょうか。お客様に喜んでもらうことはもちろんですが、その中にライブの良さであったり、自分らしさのようなものが伝わればより楽しんでもらえるのではないかと考えて勤めています。子供の頃はじめて寄席へ行った時の感動を自分が与えられたら最高でしょうね。

実は仕事という感覚が未だにありません。他の職を経験していないので感覚がないのは当たり前かもしれませんが、趣味の延長線上というのが感覚的には近いかもしれません。落語と生活が切り離せないのです。もともと落語自体が庶民の生活を描いたものが多いので、その世界と重なる事があつたりするわけです。オンとオフがあるようでない。そうなるこれはもう職業というよりは噺家という一つの生き方なんじゃないかと。

この先、落語の中に出てくる長屋の八つぁん、熊さんや、粋だとか人情というものがあります。ますます薄れていく時代になると思うのです。せめて自分は長屋の八つぁんなり熊さんと共感していきたい、それをお客様に伝えたい。何十年か経って、少しでもそれが出来たと思えたら、この生き方は間違いではなかったと言えるような気がするのです。（完）



筆者紹介：三笑亭可龍  
（さんしょうてい かりゅう）  
1996年九代目三笑亭可楽に入門。2001年三代目可龍。2010年真打昇進。多摩市鶴牧在住

始めるエコ生活  
から太陽光発電のこころなら日本電力サービス  
エコハウス展示館  
〒206-0035 東京都多摩市唐木田1丁目15番地10  
株式会社 日本電力サービス  
お客様専用フリーダイヤル 0120-05-8210  
TEL 042-374-1444 FAX 042-374-3166

タイヤならバッテリーならオイル交換なら  
ジェームス。  
ジェームス唐木田店 多摩市唐木田1丁目9番 TEL.042-311-2885

株式会社 麻生徽章  
TEL. 042(374) 0330(代)  
FAX. 042(374) 0477  
〒206-0035 東京都多摩市鶴牧6丁目9番地1  
E-mail: prize@asou-kisyo.jp  
営業品目  
バッジ・メダル カップ・トロフィー キーホルダー・タイピン・ストラップ  
校旗・社旗・会旗・優勝旗・懸垂幕・横断幕・のぼり・腕章・ワッペン  
看板（室内サイン・屋外アートサイン/デザイン設計 施工）  
東京都知事許可 一般建設業（般-23）第126872号  
●その他各種記念品、特注品も承ります。☆ご用命を心よりお待ち申し上げます。  
http://prize.asou-kisyo.jp/

キャンペーン実施中  
2014年3/31日まで  
東急自動車学校  
多摩市唐木田3-6 tel.042-372-0109